

# **登別市津波避難計画（地域計画）**

## **【登別市津波避難ハンドブック】**

**中央地区連合町内会・登別市**

**平成26年10月16日 策定**

## はじめに

平成23年3月11日、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震「東北地方太平洋沖地震」が発生し、私たちの暮らす日本は、東日本各地を中心に甚大かつ深刻な被害を受けました。

平成24年6月28日には、北海道から「太平洋沿岸の津波浸水予測図」が公表され、登別市では高いところで10.2メートルの津波により市街地の多くが浸水する予測となっています。この予測は、あくまでも予測であり、必ずこの予測のような津波が起きるというわけではありませんので必要以上に心配することはありませんが、平時から津波に備えておくことが大切です。

津波から尊い人命を守るためには、国や北海道、市などの行政や防災関係機関などが災害を最小限に食い止めるための防災活動を行うことも大切ですが、市民一人ひとりが「自分の命は自分で守る」という考えをしっかりと持ち、精一杯、津波から逃げるのが何よりも大切です。

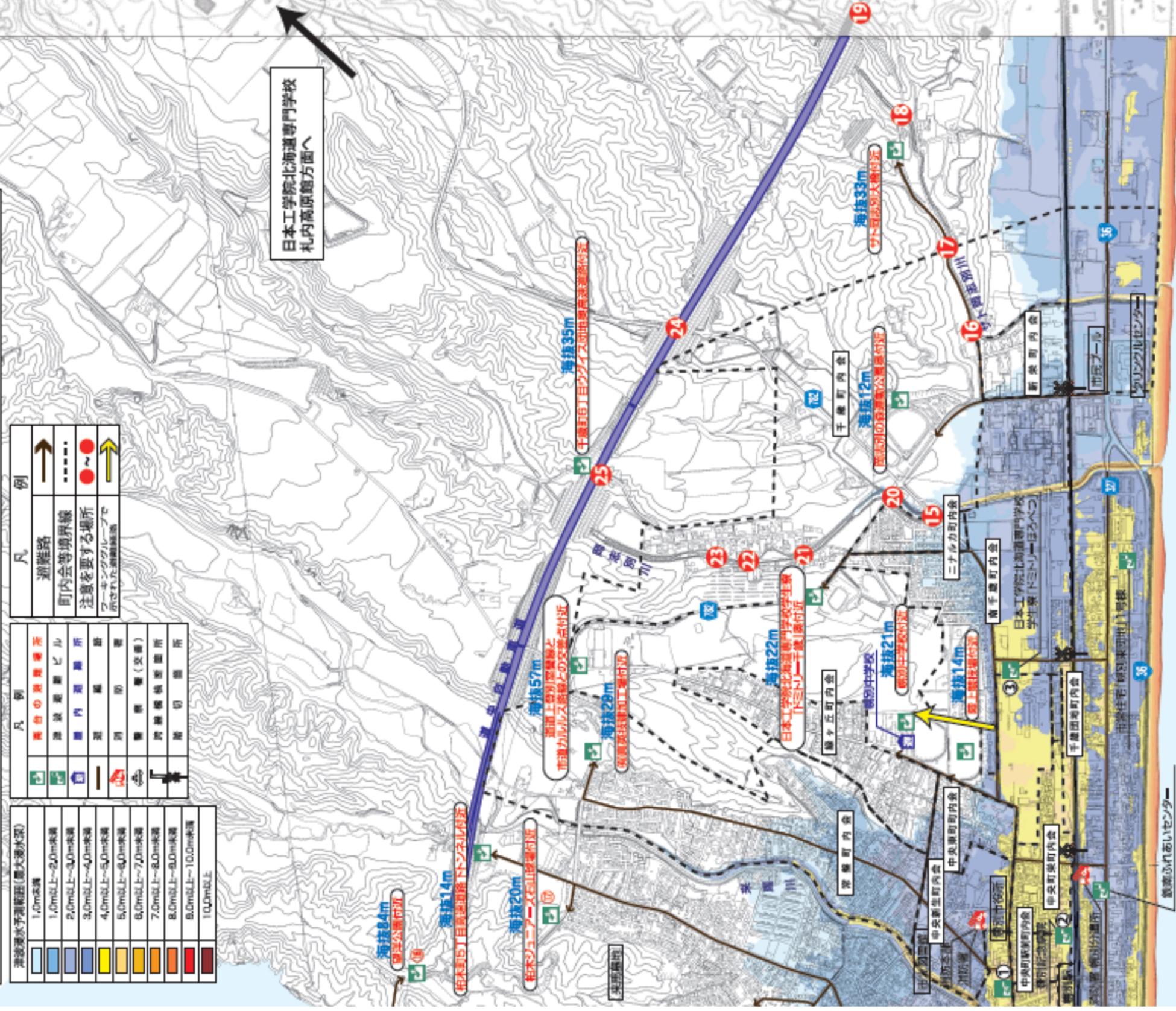
一人ひとりが全力を尽くし、地域で支え合いながら、津波から迅速に逃げるのが津波による被害を最小限に食い止めることにつながります。

この「登別市津波避難計画（地域計画）」は、津波が発生した場合にその発生直後から津波が終息するまでの概ね数時間から2・3日の間、住民等の生命と身体の安全を確保するための「登別市津波避難計画」をもとに、地区連合町内会を単位とした市民の皆さんと市がともに取り組み策定した地域版の津波避難計画です。

この冊子では、津波浸水区域内の高台避難場所をはじめ、高台避難場所までの避難路、避難に注意を要する場所などを掲載していますので、各家庭で避難路までの避難経路を書き込むとともに、高台避難場所などをご確認いただき、津波に備えてくださいますようお願いします。



# 中央地区連合町内会の津波避難計画図2



津波浸水予測範囲(最大浸水深)
1.0m未満
1.0m以上～2.0m未満
2.0m以上～3.0m未満
3.0m以上～4.0m未満
4.0m以上～5.0m未満
5.0m以上～6.0m未満
6.0m以上～7.0m未満
7.0m以上～8.0m未満
8.0m以上～9.0m未満
9.0m以上～10.0m未満
10.0m以上

凡 例	例
緑の避難場所	→
避難経路	---
町内会等境界線	●～●
注意を要する場所	↑
フェンス・ゲートなどで おさめられた避難経路	

日本工学院北海道専門学校  
札幌市立中央図書館方面へ

桜木町(沖合水深10m地点)  
沿岸浸水水位 影響範囲時刻 撤収避難時刻  
8.8m 19分 49分  
※「桜木町」とは、時刻から一定近い時刻を指します。

## 避難時に注意を要する場所

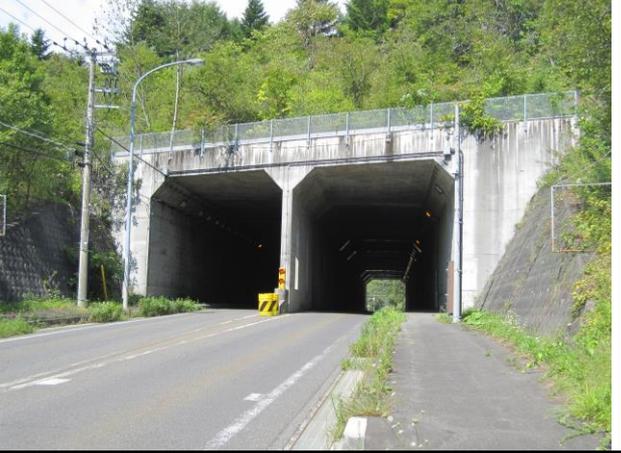
	注意を要する場所	注意を要する理由	現 状
①	道道登別室蘭インター線	倒壊または倒壊する恐れがあるときは使用しない。 上り勾配があるため、冬期や夜間など注意。	
②	道道登別室蘭インター線	信号機付きの交差点。 車の交通量が多いため、道路の横断注意。	
③	道道弁慶幌別線と市道中央24号線（東通り）との交差点	信号機付きの交差点。 車の交通量が多いため、道路の横断注意。	
④	道道弁慶幌別線と市道中央42号線との交差点	片側信号機付きの交差点。 車の交通量が多いため、道路の横断注意。	

	注意を要する場所	注意を要する理由	現 状
⑤	道道弁慶幌別線 と市道中央34 号線との交差点	信号機のない交 差点。 車の交通量が多 いため、道路の横 断注意。	
⑥	道道弁慶幌別線 と市道中央38 号線との交差点	信号機付きの交 差点。 車の交通量が多 いため、道路の横 断注意。	
⑦	道道弁慶幌別線 と市道カルルス 路線との交差点	信号機付きの交 差点。 車の交通量が多 いため、道路の横 断注意。 上り勾配がある ため、冬期や夜間 など注意。	
⑧	市道5号線（常 盤通り）と市道 中央8号線との 交差点	信号機付きの交 差点。 車の交通量が多 いため、道路の横 断注意。	

	注意を要する場所	注意を要する理由	現 状
⑨	市道 5 号線（常盤通り）と市道中央 38 号線との交差点	信号機のない交差点。 車の交通量が多いため、道路の横断注意。 上り勾配があるため、冬期や夜間など注意。	
⑩	市道 5 号線（常盤通り）と市道カルルス路線との交差点	上り勾配があるため、冬期や夜間など注意。	
⑪	常盤公園からの上り坂通路	足元が悪く、上り勾配があるため、冬期や夜間など注意。	
⑫	常盤町 2 丁目広場からの上り坂通路	足元が悪く、上り勾配があるため、冬期や夜間など注意。	

	注意を要する場所	注意を要する理由	現 状
13	市道常盤16号線から常磐町3丁目に抜ける階段通路	段数のある手すりつき階段。上り勾配があるため、冬期や夜間など注意。	
14	道道上登別室蘭線	上り勾配があるため、冬期や夜間など注意。片側歩道にも注意。	
15	道道上登別室蘭線「岡志別橋」	倒壊または倒壊する恐れがあるときは使用しない。岡志別川の津波溯上に十分注意。	
16	サト岡志別川の橋	倒壊または倒壊する恐れがあるときは使用しない。サト岡志別川の津波溯上に十分注意。	

	注意を要する場所	注意を要する理由	現 状
⑰	サト岡志別川の橋	倒壊または倒壊する恐れがあるときは使用しない。 サト岡志別川の津波溯上に十分注意。	
⑱	サト岡志別大橋	倒壊または倒壊する恐れがあるときは使用しない。	
⑲	新サト岡志別橋	倒壊または倒壊する恐れがあるときは通行しない。	
⑳	千歳橋	倒壊または倒壊する恐れがあるときは使用しない。 岡志別川の津波溯上に十分注意。	

	注意を要する場所	注意を要する理由	現 状
⑳	鶯 1 号橋	<p>倒壊または倒壊する恐れがあるときは使用しない。</p> <p>岡志別川の津波溯上に十分注意。</p>	
㉑	鶯 2 号橋	<p>倒壊または倒壊する恐れがあるときは使用しない。</p> <p>岡志別川の津波溯上に十分注意。</p>	
㉒	鶯 3 号橋	<p>倒壊または倒壊する恐れがあるときは使用しない。</p> <p>岡志別川の津波溯上に十分注意。</p>	
㉓	道道上登別室蘭線と道央自動車道交点	<p>倒壊または倒壊する恐れがあるときは使用しない。</p>	

	注意を要する場所	注意を要する理由	現 状
<p>②⑤</p>	<p>千歳町6丁目ウ グイス団地奥 道央自動車道交 点</p>	<p>倒壊または倒壊 する恐れがある ときは使用しな い。</p>	

## 津波避難ビル

津波避難ビルとは、津波から身を守るためには直ちに高台に逃げるのが大切であるが、地震発生から津波到達までの時間や地形の条件などの理由により、津波からの避難が特に困難と想定される地域において、やむを得ず使用する緊急的・一時的な避難施設である。

	名 称	一時避難場所・ 入口	外 観
①	登別中央ショッピングセンター アーニス	【一時避難場所】 屋上駐車場  【入口】 屋上駐車場入口	
②	登別記念病院	【一時避難場所】 4階リハビリ室  【入口】 外階段から4階 非常口	
③	日本工学院 北海道専門学校 学生寮「ドミトリ一ほろべつ」	【一時避難場所】 3～8階廊下  【入口】 正面玄関	

※ 津波避難ビルを新たに選定した際は、広報紙でお知らせしますので、各家庭で本ハンドブックに書き込みしてください。

## 高台の避難場所

名 称	海 抜	現 状
陸上競技場付近	海拔 1 4 m	
幌別中学校付近	海拔 2 1 m	
日本工学院北海道専門学校学生寮「ドミトリー千歳」奥付近	海拔 2 2 m	
(有)真英技建加工場付近	海拔 2 9 m	

名 称	海 抜	現 状
<p>道道上登別室蘭線と市道カルルス路線との交差点付近</p>	<p>海拔 57 m</p>	
<p>千歳町6丁目ウグイス団地奥高速道路付近</p>	<p>海拔 35 m</p>	
<p>岡志別の森運動公園奥付近</p>	<p>海拔 12 m</p>	
<p>サト岡志別大橋付近</p>	<p>海拔 33 m</p>	

## その他の避難場所

名 称	海 抜	現 状
日本工学院北海道専門学校	海拔約 170m	
札内高原館	海拔約 196m	

## 津波災害に備えて準備しましょう

非常用持ち出し品・非常用備蓄品の準備は、防災対策の基本です。  
以下を参考に、家族構成に合わせて準備しましょう。

定期的に食品の賞味期限や電化製品の故障がないかをチェックすることも忘れずに！

### 非常用持ち出し品（災害発生時に最初に持ち出すもの）

救援活動を受けられるまでの間（目安として3日間）を見込んだ非常用持ち出し品です。以下のほか、各家庭で必要と思われる持ち出し品を備えておきましょう。

#### ○食糧

非常食（乾パンや災害備蓄用パン、乾燥米飯、缶詰など火を通さなくていいもの×3日分程度）

#### ○水

非常用保存飲料水（ペットボトル500ml×3本程度）

#### ○生活用品

懐中電灯、携帯ラジオ、ウエットティッシュ、加熱パック、軍手、タオル、洗面具、食品用ラップ、ナイフ・缶切り、生理用品、非常用トイレ袋、医薬品、サバイバルシート、ティッシュ、ビニール袋、使い捨てカイロ、カップ、ローソク、マッチ、防災マップなど

## **非常用備蓄品（災害に備え各家庭で備蓄しておくべきもの）**

非常用備蓄品は、津波災害に限らず、さまざまな災害に備えておくべきもので、避難した後、警報等が解除され、安全を確認して自宅へ戻り、避難所へ持ち出したり、または自宅で避難生活を送る上で必要なものです。救援物資が届くまでの数日間（3日間程度）、自足できる分量を備えましょう。

### **○食糧**

そのまま食べられるか、簡単な調理で食べられるもの。缶詰やレトルト食品、切りもち、チョコレート、梅干し、チーズ、調味料など非常食（乾パンや災害備蓄用パン、缶詰など火を通さなくていいもの）

### **○水**

飲料水は大人一人当たり1日3リットルが目安。飲料水以外に炊事、洗濯、トイレなどに使う生活用水の確保のため、風呂の水は抜かず、寝る前はポットややかんに水をいれておきましょう。

### **○生活用品**

カセットコンロ、紙食器、割りばし、ウエットティッシュ、トイレットペーパー、加熱パック、軍手、タオル、洗面具、水のいらないシャンプー、食品用ラップ、ナイフ・缶切り、生理用品、非常用トイレ袋、医薬品、サバイバルシート、ティッシュ、ビニール袋、使い捨てカイロ、カップ、ローソク、マッチ、マスク、ランタン、寝袋、防災マップなど

## **非常用持ち出し品（乳幼児がいる場合）**

粉ミルク、レトルトや缶詰の離乳食、哺乳ビン、スプーン、哺乳ビンの消毒剤、紙おむつ、お尻ふき、着替えの服、抱っこひも、ベビーソープ、バスタオル、医薬品、ガーゼ、爪切り、母子手帳など

## **非常用持ち出し品（高齢者がいる場合）**

レトルト食品（おかゆなど）、医薬品、老眼鏡、入れ歯と入れ歯ケース、補聴器など

## 津波からの避難マニュアル

緊急地震速報（警報）を見聞きしたときは、周りの人に声をかけながら、あわてず、まず身の安全を図りましょう。

屋内では、頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難しましょう。屋外では、ブロック塀の倒壊、看板及び割れたガラスの落下に注意しましょう。

避難するために助け合える時間は、津波が来るまでの限られた時間しかありません。いざというときに速やかに避難できるよう家族や隣近所の人たちと話し合っておきましょう。

### 揺れがおさまったら

#### ○ テレビやラジオで情報収集に努める。

特に津波の情報（大津波警報、津波警報、津波注意報）を急いで確認し、身の安全を図る。大津波警報が出ていたら速やかに高台避難場所へ避難する。

#### ○ 家族や隣近所に声をかけて無事確かめる。すぐに避難するよう呼びかける。

### 日頃から備えましょう

- 高齢などのため避難が困難な世帯を地域で情報交換をしながら確認しておく。
- 日頃から声をかけ合う近所づきあいをする。
- どこに避難したらよいか、安全な場所と避難経路を一人ひとりが確認しておく。
- 聴覚障がい者など、呼びかけに気づかない人もいるので、情報を必要とする人を地域で情報交換をしながら確認しておく。

## 避難するためには

- 高齢者や障がい者の避難を支援するとともに、まだ避難していない人に声をかける。

### 日頃から備えましょう

- 高台避難場所に避難するまでの所要時間、避難経路を一人ひとりが確認しておく。
- 歩けない人など、担架やリヤカーが必要な人を地域で情報交換をしながら確認し、地域での支援について話し合いをしておく。

## 津波が迫っていて、時間的な余裕が少なくなったら

- 自分の身の安全を第一に行動する。一目散に避難する。

### 日頃から備えましょう

- 自分の命は、自分で守らなければならないことを一人ひとりが自覚する。

## 安全な場所に避難したら

- 安全が確認されるまで避難場所にとどまる。
- まわりの人たちと励まし合う。
- 安全が確認されるまでは、むやみに避難場所から動かない。

### 日頃から備えましょう

- ラジオ等で情報収集ができるようあらかじめ非常用持ち出し品を備えておく。

## わが家の防災メモ

- 本ハンドブックの津波避難計画図に、ご家族で高台の避難場所を確認し避難経路を書き込みましょう。
- 学校や買い物など外出先の高台の避難場所を確認し、ご家族で話し合っておきましょう。

わが家の避難場所 (高台避難場所名)	
-----------------------	--

家族の名前	血液型	電話番号 (携帯電話等)	会社・学校	
			名称	電話番号

親戚・知人の名前	電話番号 (携帯電話等)	メモ

緊急連絡先	電話番号	緊急連絡先	電話番号
登別市役所 (代表 夜間・休日)	8 5 - 2 1 1 1		
登別市役所 (防災担当)	8 5 - 1 1 3 0		
登別市消防署	8 5 - 2 5 5 1		
登別交番	8 5 - 2 1 3 6		